

平成28年度第1回
東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会
(資料評価部会 典籍・文書部会)
議事録要旨

平成28年11月11日(金)
東京都江戸東京博物館 2階会議室

午後 1 時30分開会

小南企画調整課課長代理：それでは、委員の皆様がおそろいになりましたので、会のほうを始めたいと思います。

本日は、お忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。

ただいまから、「平成28年度第1回東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会（資料評価部会 典籍・文書部会）」を開催いたします。

私は、東京都生活文化局文化振興部課長代理の小南と申します。本日の司会を務めさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

資料収蔵委員会には、収集部会と評価部会がございます。収集部会は、江戸東京博物館の収蔵品としてふさわしいか否かを御審議いただく会、また、この評価部会は、江戸東京博物館の収蔵品として価格が適切か否かを個別の委員の方々に評価いただく会となっております。

なお、本日午前中に収集部会を開催いたしまして、当部会でお諮りする案件につきましては、収蔵するのが適切であるという御意見をいただいております。

本日の評価部会は、都民の財産となる貴重な資料にふさわしい適正な価格評価をよろしく願いいたします。

まず初めに、東京都江戸東京博物館副館長の小林から御挨拶を申し上げます。

小林副館長：本日は、お忙しい中、東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会の評価部会にお集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

今年度第1回の資料収蔵委員会となります。

本評価部会は、古文書などの歴史資料を中心に評価いただくこととなります。いずれも当館の常設展示、あるいは展覧会での活用が十二分に可能であり、江戸東京博物館に必要な資料でございます。厳しい博物館運営と限られた予算の中で、厳選した資料収集に努めてまいりました。

本日は御審議のほど、どうぞよろしく願い申し上げます。

小南企画調整課課長代理：それでは、本日御出席いただきました委員の皆様を御紹介させていただきます。私の向かって左の席から順に御紹介させていただきます。

山本委員でございます。

湯浅委員でございます。

吉田優委員でございます。

木村委員でございます。

吉田成委員でございます。

皆様、よろしく願いいたします。

続きまして、事務局職員を紹介いたします。

東京都江戸東京博物館事業企画課長の新田でございます。

それでは、議事に入りたいと思いますが、それに先立ちまして、当部会の公開について

申し上げます。

まず、委員の皆様のお名前と現職名は、東京都のホームページで公開をさせていただいております。また、当部会の議事録につきましては、東京都として資料収集の決定後になります。公開を予定しております。公開に当たりまして支障のある内容がないかどうか、事前にこちらのほうは確認をさせていただきたいと考えております。なお、委員の個別の価格評価の金額につきましては非公開となりますので、よろしくお願いたします。

新田事業企画課長：それでは、議事に入りたいと思います。

まず、新田から、本日御評価いただく資料の説明をいたします。

説明の前に、お手元の資料の御確認をお願いいたします。

一番上にございますのが会議次第でございます。

A4の縦版、委員名簿でございます。

同じく、江戸東京博物館収蔵委員会設置要綱、こちらはホチキスどめ2枚のものでございます。

A3横版、平成28年度第1回資料収蔵委員会（典籍・文書部会）評価票でございます。

同じくA4横版、ホチキスどめ、平成28年度第1回資料収蔵委員会資料（資料評価部会 典籍・文書部会）。

A4縦、平成28年度第1回資料収蔵委員会（資料評価部会 典籍・文書部会）説明資料をお配りしております。

あわせて、パンフレット等が入りました封筒も御用意してございます。おそろいでございますでしょうか。

なお、お配りした名簿の肩書などに誤りがございましたら、恐縮ですが、後ほど事務局へ御連絡ください。

また、お手元の資料につきましては、現時点では未公開の情報がございますので、会議終了後、回収をさせていただきます。

それでは、本日御評価いただく資料の説明をさせていただきます。先ほどの平成28年度第1回資料収蔵委員会（資料評価部会 典籍・文書部会）説明資料をごらんください。

まず初めに「薩摩藩士仙波家文書」でございます。

こちらは、仙波市左衛門永賛の日記3冊・道中日記3冊、仙波家由緒書など2冊から成ります。仙波市左衛門は薩摩藩士で奥向にかかわる役職を歴任し、その娘さかには天璋院づきの中臈となり、江戸城大奥へ上がりました。

篤姫が今泉家から島津宗家に入り江戸へ向かう様子や、さかが召し出され篤姫づきとなり大奥へ入る過程が記された貴重な文献でございます。特筆すべきは、嘉永6年3月29日付の永賛の日記に「今泉御嫡女様ニ而おいち様と申候」との記載があり、篤姫の最初の名前が「おいち」と読むことがわかったこととございます。仙波市左衛門が鹿児島で篤姫の婚礼用の衣装を調達したことなど、ほかの資料では知ることができない情報が記載されております。

仙波家はもともと御三卿清水家に仕えており、鷹匠の腕を買われた初代が島津家に雇用された家でございます。篤姫に関するだけでなく、島津家と将軍家との関係や、江戸定府の務めなど、さまざまな視点で活用できる資料と考えております。

続きまして、『日本』でございます。昭和13年頃の発行です。

外務省の外郭団体国際文化振興会が刊行した日本紹介の写真帖です。昭和12年の日中戦争勃発前後から日本への関心が国際的に高まったことから刊行が決まり、制作費は軍事関係費から支出されました。制作は、第2次の日本工房が行い、土門拳、藤本四八、デザイナーの山名文夫、亀倉雄策らが参加いたしました。

折帖仕立てで、解説文とキャプションは全て英独仏の3カ国語で記されております。日本の豊かな自然や文化、スポーツ、産業、教育など、日本の伝統と発展した社会の両面を紹介しております。写真の大胆なトリミングとレイアウト、継ぎ目が見えないモンタージュの技術は、当時の最高峰のものでございます。場面が途切れなく続くように配置されており、写真で紡ぐ絵巻物のようなつくりとなっております。

本資料は、海外向けの贈呈用につくられたものであるため、伝存数は極めて少なく、戦時下の日本が行った対外宣伝戦略の一端を知ることができる貴重な資料でございます。

説明は以上です。

小南企画調整課課長代理：では、何か御質問などはございますでしょうか。

特によろしいでしょうか。

それでは、次に、評価方法について説明をさせていただきます。

お手元に配付させていただきましたA3横の評価票と書かれた資料になりますが、こちらのほうに、右欄で空欄になっております評価額の欄に金額を記載いただきまして、右下のところにお署名いただくこととなります。

評価に当たりましては、評価額の最高価格と最低価格を除いた残り価格の平均値を本委員会、部会としての評価額といたします。

この点について、何か御質問や御意見はございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、資料の現物確認をしたいと思いますので、移動をお願いいたします。

また、資料に関する個別の御質問につきましては、学芸員のほうへお尋ねをお願いいたします。

(委員離席)

(資料実見)

(委員着席)

小南企画調整課課長代理：それでは、議事を再開させていただきます。

資料をごらんいただきまして、何か御意見、御質問がございましたら、お願いいたします。特によろしいですか。

吉田優委員：『日本』のほうは、恐らく満州映画協会会長の甘粕正彦などが後ろ立てとしているわけですね。それであれだけたいそうなものをつくったのですよね。違いますか。

名取洋之助などというのは満州まで甘粕についていったんですよね。やはり、バックは甘粕ですよね。

事務局：満州映画協会とは関係ないです。

吉田優委員：直接的には関係ないですか。でも、あの写真家たちはみんな関係していますよね。甘粕の息がかかっている人達ですよね。

山本委員：藤本四八は関係ない。

吉田優委員：そうですか。

山本委員：しょうがない。土門拳が2人も3人もいないから、両方に出るのでしょうか。

小南企画調整課課長代理：ほかにもし何かございましたら。大丈夫ですかね。

山本委員：仙波家資料は一般向けには篤姫云々でよいけれども、歴史的に重要なのは、島津家と将軍家の関係、江戸での務めがわかるということでしょう。

小南企画調整課課長代理：ありがとうございます。

山本委員：前後のいきさつは、文書のほうは、類推はしていたけれども、よくわかりました。

小南企画調整課課長代理：それでは、よろしいでしょうか。

質問などがございましたら、お手元の評価票に価格評価と御署名をお願いいたします。なお、金額のほうは消費税込みとなっておりますので、よろしくをお願いいたします。

それでは、御記載をお願いいたします。

御記入を終えられた方から、合図といたしますか、お声がけいただければ、係の者が確認いたしますので、確認が終わるまでお待ちいただきまして、確認が終わりましたら、適宜御退席いただいて結構ですので、よろしくをお願いいたします。

これもちまして「平成28年度第1回東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会（資料評価部会 典籍・文書部会）」を終了いたします。ありがとうございました。

午後2時15分閉会

以上